

「相沢がエリスに日本帰国のことを伝えたことについて」

私がこのテーマにした理由は、相沢が豊太郎の帰国のことを告げたのには何か理由があると思ったし、その理由が分かればエリスの発狂は本当に相沢のせいであるのかも分かると思ひ、それを考えてみたいと思ったからである。

私はこのテーマを「豊太郎の性格」と「相沢の性格」をもとに考えていき、結論としては「相沢は悪くない」ということをこのレポートで言いたいと思う。

まず豊太郎の性格から考えてみると、豊太郎という人物は本文中にもあるように、弱い心の持ち主で臆病で友人からの頼みに「いや」と言えないような人間である。そして今回も、そんな豊太郎の性格がエリスを裏切る結果となってしまったのだ。さらに、豊太郎の臆病な心ではエリスにそのことを告げることはできず、豊太郎は街をさまよって最終的に気を失ってしまう。つまり、豊太郎が、大臣に日本に帰国することを断れるような強い心、もしくは、帰国を決断して「自分は日本に帰って世の中の役に立ちたいんだ」ということをエリスにはっきり言って納得させられるような強い心を持っていれば、豊太郎自身、気を失うようなこともなかったし、エリスが精神病になることもなかったはずである。

次に相沢の性格から考えてみると、相沢は自分の言いたいことは言う人だが、豊太郎のことを何回も救ってきたし、やさしい人間である。そんな相沢は豊太郎とは昔からの友人なので、豊太郎の臆病なところも知っていただろうし、エリスに伝えることは難しいのではないかと思つたはずである。そこで実際、豊太郎が倒れた一部始終を聞いて、豊太郎が困っていることを察し、そんな豊太郎のためを思って代わりにエリスに伝えたのではないかと考える。また相沢の言いたいことが言えるような性格がエリスに帰国のことを伝える決心させたのであろう。

これらのことから私は、相沢が豊太郎の帰国のことを告げたのは、すべて親友である豊太郎の性格を分かつたうえでの行動であり、豊太郎のことを思つてのことだと言える。したがって、エリスが発狂したことについて相沢は悪くないのである。また、相沢が告げた時にエリスが「我が豊太郎ぬし、かくまでに我をば欺きたまひしか」と叫んだことから、エリスの発狂は、豊太郎に裏切られたことのショックが大部分であり、相沢が言ったとしても違う人が言ったとしてもエリスが発狂することにはかわりのないことだと言える。このことから相沢は悪くないと言える。

しかし、最後に思つたのは、ではなぜ豊太郎は本文中で最後に相沢を恨んだのかということである。エリスが発狂したのは豊太郎の帰国が原因であるし、エリスに率直に帰国のことを告げることができなかつた豊太郎にも責任があると考えられるのに、一方的に相沢のことを恨むのは少し疑問に思つた。